

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. B-4

部門名：働き方改革実践部門	エントリー名：兵庫県伊丹市立昆陽里小学校
活動名： 働き方改革も授業改善も 改革・改善は誰がやる？皆でやる！	
解決すべき課題： 昨年度末 4 名が定年で勇退し、わが校は教員の 4 割が 20 代、平均年齢 36.1 歳という超若返り時代に突入した。先輩の実践から後輩が学ぶ緩やかな OJT では教育力の維持向上が難しい状況にある。しかし、学力向上、不登校児童解消が目下の課題である中、新学習指導要領の全面实施を目前に控え、働く時間は短縮しつつも教育の質をあげていくことが求められている。これを解決するには、校長のリーダーシップの下、個々の教職員が課題意識を持ち、ベクトルをそろえて主体的に解決しようとするのが重要である。	
目標・方針：「授業がよければ残業が減る」を実感しよう	
その 1	No！ムリ・ムダ・ムラ。気づきを活かした業務の精選が時間短縮の緒となる。
その 2	生み出した時間を公私に振り分け！心の充足が自己研鑽のエネルギーを生み出す。
その 3	授業改善！わかる授業で学力向上 & 問題行動の出現抑止。結果的に時間外業務が減少する。
活動内容： 【兵庫県の指針に基づく従来からの取組】①ノー会議デー、定時退勤日の各 1 日/週②ペーパーレス会議③留守番電話など。→→→ 教員の意識改革 ムダを省き、時間を意識した働き方への一定の理解浸透 【ミドルリーダーの育成】①業務改善プロジェクトチームの発足②適材適所に校務分掌を配置③教育界の動向についてこまめに情報提供 【新たな取組事例】①モジュールの実施→補充時間の確保②40 分授業午前中 5 時間の試行→下校時間の前倒しでゆとりある放課後③副教材の精選で単元テストの予算を確保→教材研究の時間拡充④定例の家庭訪問の目的は居住地把握→時間短縮⑤水曜日は掃除なし→昼休みの拡大で行事の充た可⑥外国語・外国語活動の先行実施→全面实施への準備※PDCA サイクルを展開して全体で改善を図る	
活動の成果： ■業務改善プロジェクトチームのメンバーは有志で構成。課題意識を持って教員同士が対話をととして方策を練る機会となっている。校長の高い識見と情報が、方向性を示すとともに、提案しやすい環境を整えている。 ■「40 分授業午前中 5 時間」について→教員：「放課後、教材研究をしっかりとできた。学年やチームの時間がしっかりとれた。」→児童：「いつもより時間が短かったけど集中できた。早く帰れてうれしかった。習い事までゆとりできた。」→保護者：「子どもにとっては余裕ができてよかった。早く帰ってくると家の対応が増える。」 ■事例をやりっ放しにせず、中間評価を行うことを明言してスタートした。その結果、夏季休業中に行った研修会では、全員が自分事として考え、意見を述べていた。学校運営参画意識が醸成される場となった。 ■研究授業が日常に活かされず、全体で共有されにくい状況が課題であった。物理的、時間的にゆとりを生み出すことで事前研究会の活性化が見られた。授業改善への意欲が高まった。	
アピールポイント（アイデアや工夫）： ■3つのC。ピンチはチャンス、チャンスはチャレンジ、チャレンジはチェンジ。（校長が示す行動指針） ■「それってほんとに必要？」と、これまで当たり前とってきたことをまずは疑ってみる目が生きる。 ■「先生が笑顔なら子どもは笑顔。子どもが笑顔なら保護者も笑顔」を確かめることに価値あり。	

<図 1>

Chance

実績

- ノー会議デー、定時退勤日 ※①
- ペーパーレス会議
- 留守番電話
- 記録簿

Challenge

事例

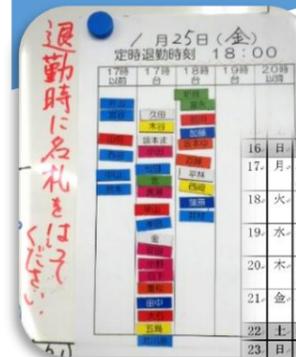
- モジュール
- 40分 5 時間授業 ※②
- 水曜日掃除なしデー ※③
- 単元テスト
- 家庭訪問 ※④
- 外国語

Change

効果

- 補充時間の確保
- 児童と向き合うゆとり
- 指導と評価の共通理解
- 放課後の充実
- 超過勤務の減少

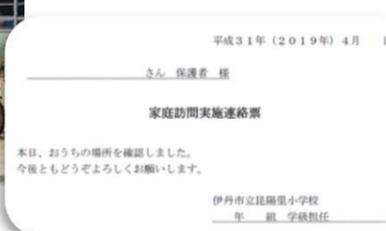
授業改善



※①



※②



※③



※④

<グラフ 1> 月間超過勤務時間平均(1 学期) 単位：時

月	昨年度	今年度
4月	36.14	36.26
5月	36.26	33.42
6月	33.42	29.2
7月	29.2	29.2

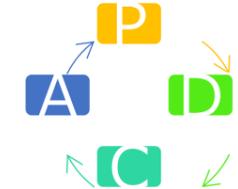
目標：前年度比 10% 減

<写真 1> 市指定研究 2 年目 (算数)



<グラフ 2> いじめ認知件数 (1 学期)

年度	件数
H29	53
H30	65
H31	46



ズレを
いかす

アウト
プット

学力
向上

<図 2> 今後の見通し

行政、地域との連携		
運動会の テント設営	プール開き 前の清掃	時間外の 対応
授業時間 の確保	チーム対 応の時間 確保	学校運営 協議会で 熟議

<写真 2> 中間評価ワークショップ研修会

学校運営参画意識の醸成

